

## 平成 27 年度第 10 回講演会 記録

|     |                                  |
|-----|----------------------------------|
| 日 時 | 平成 27 年 9 月 12 日 (土) 13:00~16:00 |
| 会 場 | 此花会館 梅香殿 大ホール                    |
| 講 師 | 甲子園大学栄養学部教授 川合 眞一郎               |
| 演 題 | 世界の水事情 ~ 21 世紀最大の資源問題 ~          |
| 備 考 | 参加者数 159 名 記録 山野 渉               |

川合先生は 40 年間にわたり、水環境、特に河川や沿岸域の環境調査に従事され、その中でも環境汚染が水生生物に及ぼす影響に的を絞って多岐にわたる調査研究をされ、人間の諸活動と水環境の汚染との関係を把握されてこられた。本日は先生の研究成果の中から「世界的に水不足の時代が始まっていること、日本もその例外ではない」ことを認識してもらう目的で、レジュメに記載の 8 項目について豊富な P P 資料を駆使して講義していただいた。広範囲にわたったお話の内容はどれも重要な事柄ばかりであったが、特に印象的であった項目を以下に記す。



## 1. 世界の水資源・水不足の 21 世紀・日本の水資源問題

- (1) 水は地球上のあらゆる生き物にとって不可欠であるが、我々が使用できる地表水は淡水の 0.3% しかないにも関わらず、世界人口は増加し、世界経済が急速に発展するにつれて水需要はさらに拡大している。
- (2) 複数の国をまたいで流れる「国際河川」は開発や取水を巡って争いが絶えない状況である。  
日本では「水と安全はタダ」といわれ水不足とは無縁の国と考えられてきたが、海外資本が日本の水源林を購入する動きなどの問題が起こっている。

## 2. 自給率と水不足・水環境汚染の過去と現在・環境ホルモン問題・水俣病は終わっていない

- (1) 食料自給率の低い日本は、食料輸入先の国々の水を大量に使用していることを認識すべき。干ばつなどで水危機に陥っている国や地域からの食料輸入は多くの問題を含む。
- (2) 産業の急激な発達による河川の汚染により悲惨な公害問題が発生し、多くの犠牲者を生んだが下水道の普及と処理技術の発達、法規制の強化、環境保全に関する意識の向上などで水環境の改善が進んだ。
- (3) 環境ホルモン問題は今後も重要な問題として取り組む必要がある
- (4) 水俣病の原因追求については解明はできたが、いまだに苦しんでいる人たちが多くおられる。水俣病に限らず環境問題は倫理的視点が必要である。

## 【所感】

「21 世紀最大の資源問題」のタイトルで講演していただいたが、まさに最大の資源問題であることが実感できました。我々が社会生活を営む上で普段から感じ、関心を持たなければならない身近で切実な問題を、研究者としていろいろな角度から明らかにされていった約 3 時間に及ぶお話は、森里海連環学を学ぶ我々にその問題の本質と今後進むべき道を示して下さったと感じている。